

市史だより

がちまやあ

Ga č i - m a j a a

第16号・2009年1月31日(土)発行
年3回(5・9・1月発行)

編集・宜野湾市教育委員会文化課 市史編集係
〒901-2710 宜野湾市野嵩1-1-2

問い合わせ・情報提供先



(098) 893-4430

Fax (098) 893-4434

Kyoiku08@city.ginowan.okinawa.jp

兵器を生活道具に



ジュラルミン製の生活用具。シンメナービ、ハガマ(羽釜)、アイロン、ビンダレー(洗面器)、灰皿などがある。

去る沖縄戦により豊かな大地は破壊しつくされました。無になった大地に残ったものは兵器の残骸ざんがいでした。戦後沖縄の人びとは、あちこちに散らばった兵器の残骸に知恵を加えて生活用具へと変えました。その一つが上に挙げたジュラルミン製の生活用具です。飛行機の羽・エンジン・プロペラなどに使われていたジュラルミンという金属を材料としました。

本来、ジュラルミンは飛行機の一部なので、日用品にするために再形成しなければなりません。最も簡単な形成方法は叩くことでした。ジュラルミンを叩いて形を整え、器などを作りました。技術がある者たちは、ジュラルミンを溶かしナービ(鍋)・ハガマ・灰皿など、あらゆる物を作り出しました。さらには、細かな模様を施した食器などもありました。このようにしてジュラルミン製品は戦後盛んに作られ、人びとの生活を支えていました。

千り捨て場は宝の山!?



宜野湾村においても、ジュラルミンは生活用具として使われていました。米軍の千り捨て場や、普天間飛行場内にあった飛行機の残骸からジュラルミンを調達していたようです。当時、普天間飛行場には周囲を囲むフェンスはなく、出入りは自由でした。そのため、村民の中には基地の中で農作業をしたり、家を建て生活する者もいたといえます。

また、千り捨て場については、次のような証言があります。

「当時家を建てる時、軍から建築資材の配給があった。軍は規格住宅の大きさを決めており、その分の材料を配給した。しかし、その材料だけでは全く足りなかったので、軍の千り捨て場に行った。当時、軍の千り捨て場は宝の山だった。そこには、アメリカ兵が捨てた未開封の缶詰や、建物の材料になる木材やトタンなどがあり、みんなそれを取りに行っていた。」

生活物資が不足している戦後の状況下で、住民がいかにして物資を得ていたかが伺い知れます。

戦後はまさにゼロからスタートでした。しかし、住民は残された物を使って生活に役立てました。その一つが今回紹介したジュラルミン製品です。これらの物は戦後を象徴するものであり、沖縄の人びとが力強く生きた証と言えます。



千り捨て場があったとされる一帯。(我如古)



新しい市史つ、出まーす

前回もお知らせしましたが、新しい宜野湾市史「宜野湾 戦後のはじまり(仮)」が間もなく完成します。サイズがA4版(この冊子の大きさと同じ)と大きく、フルカラーです。ここでは、どんな本になっているか紹介します。

戦後をイメージしやすいように、写真や図表・絵などをたくさん使いました。

※他にも、歩いて歴史を勉強する地図ものせてます!



今まで出版された宜野湾関係本から当時の様子を語った証言をのせました。

戦後、宜野湾村からの行政の動きを記録した行政文書もあります。

この続きはぜひ、手にとってご確認下さい。発刊は4月予定。お楽しみに!

沖縄・宜野湾 戦後史年表

沖縄の人びとが力強く生きた戦後からその後、どう生きたのでしょうか？島ぐるみ闘争までの出来事を年表にまとめました。人びとの生きた足跡をたどってみましょう！

①沖縄戦～混乱期		③復興期	
1944年		1949年	
7月	第32軍、沖縄に駐屯	5月	アメリカ政府、沖縄の長期保有を決定
10月	10日 「10・10空襲」	7月	アメリカ議会、1950年度予算として基地建設費約5千万ドルを計上
1945年		10月	1日 中華人民共和国成立 軍政長官にシーツ少将就任
3月	26日 米軍、慶良間諸島に上陸	1950年	
4月	1日 米軍、沖縄本島西海岸より上陸 4日 米軍、野嵩に民間人収容所設置 5日 「ニミッツ布告」により米軍政府樹立	6月	朝鮮戦争はじまる
6月	このころ嘉数の戦闘はじまる 普天間飛行場の建設はじまる	9月	3日 市町村長選挙実施、 宜野湾村長に知念清一当選
8月	21日 日本軍の組織的戦闘終了 15日 日本政府、連合国側に無条件降伏 この日沖縄では沖縄諮詢会が召集	17日	沖縄群島選挙実施 沖縄群島知事に平良辰雄圧勝
9月	13日 地方行政緊急措置要綱発表 野嵩、前原市に編入	11月	4日 沖縄群島政府発足 24日 「対日講和七原則」発表
11月	25日 羽地在住の宜野湾村民の帰還が実現	12月	15日 軍政府、USCARに改編
1946年		1951年	
1月	29日 SCAP指令、日本本土と奄美群島を含む 南西諸島との行政分離を宣言	3月	10日 沖縄群島議会、日本復帰を決議
		4月	1日 琉球臨時中央政府発足 行政主席に比嘉秀平任命
		5月	15日 宜野湾村に普天間二区新設
②忘れられた島		④銃剣とフルドーザー	
1946年		1952年	
4月	4日 市町村復活 宜野湾村長に久保田盛春任命 22日 沖縄中央政府発足、沖縄知事に志喜屋 孝信任命	4月	1日 琉球政府発足 行政主席に比嘉秀平任命 28日 対日講和条約発効 日米安全保障条約調印
5月	1日 賃金制実施される	5月	1日 戦後初のメーデー 13日 那覇に南方連絡事務所を設置
6月	5日 無償配給打ち切り、配給有償へ	1953年	
7月	1日 軍政府、海軍から陸軍へ移管	4月	3日 布令第109号「土地収用令」公布 4日 天願朝行の立法院議員当選を保留
8月	中旬 引き揚げの第一陣、久場崎港に到着	12月	25日 奄美群島日本復帰
1947年		1954年	
3月	12日 久保田盛春の退任に伴い、宜野湾村長 に桃原亀郎が就任	4月	宜野湾村伊佐浜の農作物撤去通告 30日 立法院、全会一致で「四原則」決議
1948年		1955年	
2月	1日 市町村長選挙実施 宜野湾村長に桃原亀郎無投票当選	3月	11日 伊佐浜第一次強制土地接收
4月	1日 沖縄に6・3・3制実施	7月	19日 伊佐浜第二次強制土地接收
8月	字宜野湾で「フィリピンナー事件」発生	10月	プライス調査団、宜野湾村を視察
11月	17日 軍政府、売店閉指令を発表 1日 自由企業制度実施	1956年	
		6月	プライス勧告発表、島ぐるみ闘争へ

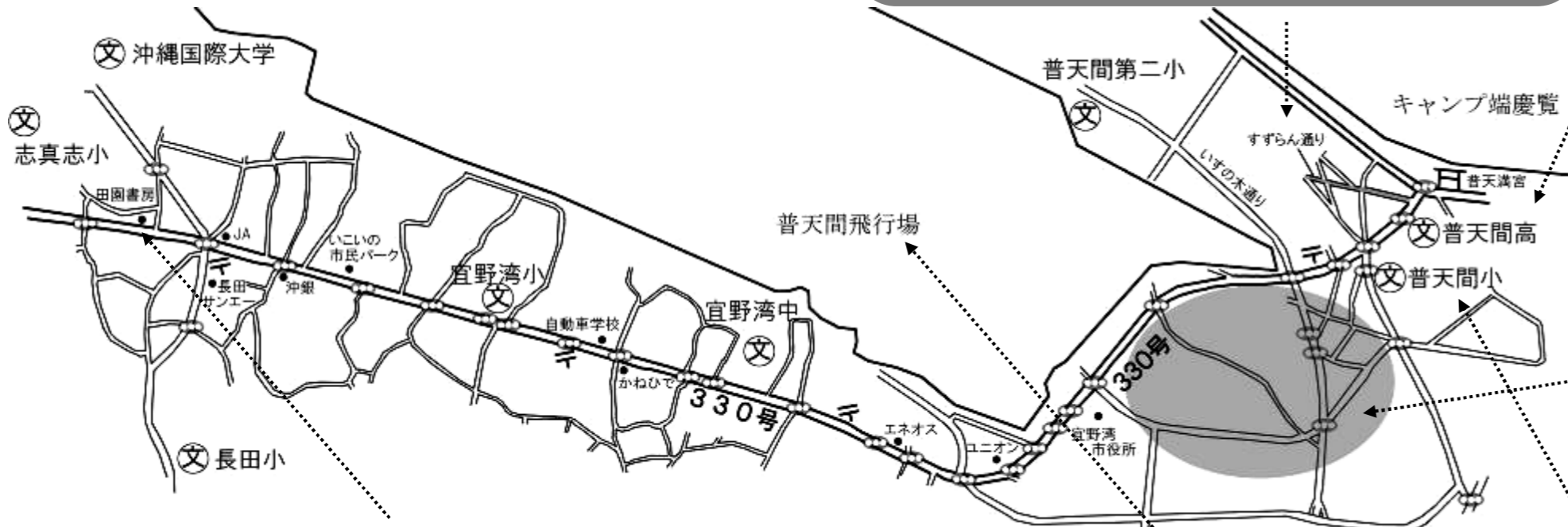
歩いてみよう！戦後の始まり①

普段みなさんが通っている国道330号は、米軍が戦後すぐに作った道路です。当時は“軍用道路5号線”と呼ばれていました。



今回は、この5号線（330号）に沿って、宜野湾の戦後の始まりをたどっていききたいと思います。

※ 4月刊行予定の市史「宜野湾 戦後の始まり(仮)」にも掲載予定です。



宜野湾劇場

現在



1949年頃



劇場ができたのは1949年で、芝居と映画を交代で見せていました。一晩に500~600人も押しかけるほど人気がある劇場でした。今は本屋さんになっています。

発電機を使って、自分たちで電気を通したよ

Aサインバー

現在



1969年



戦後、普天間すずらん通りには、米人向けの飲食店（Aサインバー）が並び、賑わっていたそうです。今もAサインバーの面影を残している建物があります。

ペイデー（給料日）は特ににぎわっていたよ

デイリーオキナワン社

現在



1946年頃



デイリーオキナワンは、米軍が発行していた新聞で、1945~48年まで今の普天間高校敷地にありました。ここでは宜野湾の人も働いており、住み込みで働く人もいたようです。

タイプや記事の割り付けの仕事をやっていたんだ

野嵩收容所

現在



1945年



收容所は、戦場で保護された人びとが集められた場所です。米軍が各家に付けた番号（ハウスナンバー）が、今も1軒に残っており、左の写真では「32」が見えます。

普天間飛行場

現在



普天間飛行場（1945年6月~）は、戦後すぐはフェンスがありませんでした。そのため人びとは、飛行場の中に入り、資材などを拾って、家を建てることもありました。

飛行場は滑走路だけがあって、使われていなかったよ

野嵩中学校

現在



1950年



野嵩中学校は宜野湾村で戦後初めてできた中学校で、茅ぶき校舎でした。今の普天間小学校の敷地にありましたが、後に普天間中学校に名前を変え、今の敷地に移動しました。

ノートは米軍払い下げの紙を使っていたよ

あの場所

今昔 2(〇)

宜野湾市の十字路

十字路のことを沖縄方言では“カジマヤー”、“アジマー”などと呼んでいます。十字路は人・モノが集まる場所で、戦前の宜野湾市でも主要な十字路は商業が発展し、人が集まり賑わう場所でした。今回の「あの場所今昔」では、宜野湾市内の戦前の十字路(カジマヤー)の様子を紹介します。(・ ㊿ ・)ノ

真栄原カジマヤー (真栄原)



現在の真栄原カジマヤー

戦前の真栄原は交通の要所で、那覇一中頭郡を往来する馬車持ち達の休憩場として賑わったそうです。当時の宜野湾村では字宜野湾、普天間などに次ぐ「マチ」で、真栄原カジマヤーには商店や飲食店、馬の蹄鉄屋などがあり、湧水を利用した水道も完備されていました。



市内の十字路(カジマヤー)の位置

スビグワーヌメー(佐真下)

屋号：楚辺小(スビグワー)の前方にあった十字路です。戦前の佐真下の中心地で、商店もありました。カジマヤーの一角は広場になっていて、そこには大きな丸い石(差石、力石ともいう)が置かれ、青年たちが集まり石を持ち上げ、力比べをしていました。戦時中は出征兵士の見送り場所でもあったそうです。場所は現在の普天間飛行場内になります。

愛知カジマヤー (愛知)



現在の愛知カジマヤー

愛知(現在の19区)の中心部にあった十字路です。戦前、付近には愛知の村屋(公民館)や闘牛場があり、また十字路に隣接するサンカマーチュウという松林には、青年男女が集まり、毛遊びで賑わっていたそうです。戦前から車が通れるほどの道幅があり、戦時中は、日本軍がトラックで乗りつけ、住民に食糧を供出させた場所でもあります。

今回は戦前の真栄原・佐真下・愛知の3カ所の十字路を見ていきましたが、それぞれの十字路に多くのエピソードがありました。地域の先輩方からお話を聞くと、市内にはまだまだいろいろなエピソードのある十字路があるかもしれません。みなさんも地域の十字路を訪ねてみてください。おもしろい発見があるかもしれませんよ(≥▽≤)

市史を幅広く使っちゃお！

読者のみなさん、『宜野湾市史』（以後「市史」と記す）は読み物とか、調べもの用にしか使わない本としか思っていないませんか？実は「市史」や宜野湾市の昔の写真や地図等を用いて、さまざまな分野と目的に合わせた活用がされています。今回は、その活用例、とりわけ講座での例を紹介します。

■■自分の可能性を発見する講座

■ ここ数年、戦後1947～49年頃に生まれた世代、いわゆる「団塊^{だんかい}の世代」が大量の定年退職を迎える時期となり、退職後の人生プランが話題に上ります。

昨年、宜野湾市民会館内の中央公民館にて、50歳以上の市内在住・在勤者を対象に「輝け熟年世代！（ギノワン不思議発見！）」講座が開かれました。これは「自分を知り地域を知ること、自分の持っている力（パワー）を地域活動に活かせるよう、参加者の地域デビューのきっかけづくりを提供」することを目的に、各回テーマを設けて講義するという内容でした。

その講座の一つに受講者が生まれ育った時期の宜野湾の写真を紹介する科目がありました。写真から生まれジマ（故郷）をみつめ直し、これから何ができるかを自己に問いかけ、自己発見のきっかけづくりとなる講座でした。



輝け熟年世代！講座

■■社会福祉に関わる講座

■ 高齢化社会の現在では、高齢者を取り巻く状況や環境もさまざまです。すべての高齢者がよりよい生活をできるよう、さまざまな事業が取り組まれています。本市の介護長寿課の「認知症介護予防事業」では、沖縄社会福祉調査研究所へ委託し、認知症の防止、介護予防への可能性を考える「ワク湧く楽習教室」を開講しています。65歳以上で未介護の人を対象とした教室です。その中に昔の宜野湾の写真を紹介する科目があり、受講者同士で体験談を語り合いながら予防に役立てるという意図です。懐かしい写真に思い出しの尽きない、和んだ雰囲気の良い教室でした。



ワク湧く楽習教室（大山）

■「市史」の活用はさらに…

このように「市史」を活かした取り組みが行われています。教育現場での地域学習や平和学習には、以前から利用はありましたが、ここ数年は昔の記憶を呼び起こす「回想法」などの医療福祉の面で活用が見られます。

「市史」は年齢や目的に合わせて幅広く応用ができます。心豊かにしてくれる「市史」を活用してみたいか、がですか？



宜野湾を学ぼう！

～宜野湾市史刊行物一覧～
(■：本編、◆：別冊、▼：報告書)

★宜野湾を学ぶ入門書★

- 第一巻 通史編 ¥2,000



★古文書にみる宜野湾★

- 第四巻 資料編 3
宜野湾関係資料 I ¥2,100



★宜野湾の戦争を知る★

- 第三巻 資料編 2
市民の戦争体験記録 ¥3,150
- ◆ ぎのわん市の戦跡 ¥ 500

★宜野湾の戦後を読む★

- ◆ 戦後初期の宜野湾
— 桃原亀郎日記 — ¥1,000
- 第八巻 資料編 7 戦後資料編 I
戦後初期の宜野湾 (資料編) ¥2,000

★宜野湾の新聞記事★

- 第二巻 資料編 1
新聞集成 I ¥3,150
- 第六巻 資料編 5
新聞集成 II ¥2,100
- 第七巻 資料編 6
新聞集成 III 上 ¥2,100
- 第七巻 資料編 6
新聞集成 III 下 ¥2,100



近刊
案内

宜野湾 戦後のはじまり(仮)
第八巻 資料編 7 戦後資料編 I
戦後初期の宜野湾 (解説編)
【価格未定】

★宜野湾の自然とふれあう★

- 第九巻 資料編 8 自然 ¥2,000
- ぎのわん自然ガイド
第九巻 資料編 8 自然・解説編 ¥1,000
- 自然とヒト
第九巻 資料編 8 自然・追録編 ¥1,000



★宜野湾人の生活記録★

ジ
ノ
ー
ン
チ
ユ

- 第五巻 資料編 4 民俗 ¥2,100
- ▼ 佐喜真興英 一生誕百年記念事業報告書一 【※非売品】
- ▼ ぎのわんの針突 【※非売品】
- ▼ ぎのわんの西海岸 — 土地利用・地名・海(イノー)・自然 — 【※非売品】
- ▼ 野嵩マールアシビ・組踊 宜野湾敵討 【※非売品】
- ▼ 村芝居 — ぎのわんのムラアシビ — ¥1,000
- ▼ 音にきく映像にみる ぎのわんの綱引き < CD・DVD セット > ¥2,000
- ▼ 読んで知る ぎのわんの綱引き ¥1,500
- ◆ 写真集「ぎのわん」 ¥1,500



★宜野湾市(村)報縮刷版★

- ◆ 第1集 1957(昭和32)年8月～1967(昭和42)年12月 ¥1,365
 - ◆ 第2集 1968(昭和43)年1月～1978(昭和53)年3月 ¥1,365
 - ◆ 第3集 1978(昭和53)年6月～1983(昭和58)年4月
 - ◆ 第4集 1983(昭和58)年5月～1987(昭和62)年12月
- 第3・4集セット ¥1,500

お問い合わせ先
宜野湾市教育委員会
文化課 市史編集係
☎(098) 893-4430



※市史刊行物は、非売品も含めて、すべて宜野湾市民図書館、宜野湾市立博物館、
県内大学／図書館において閲覧できます。ご利用ください。